

北押原地区

人口	男	5,406人	女	5,456人	計	10,862人	世帯数	4,066世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① フレンドフェスタ事業 【世代間交流】

敬老会事業と合同で開催することにより、地域の連帯感の醸成と地域住民の融和、世代間交流を図るイベントとする。

音響設備一式

② ふれあい広場ドリーム事業 【世代間交流】

自治会館を拠点とし、幼児から高齢者まで一緒に集える事業を実施することにより、育成会活動の活性化及び子育て支援、三世代交流を図る。

備品購入及びサロン運営費

③ 奈佐原文楽稽古場改修事業 【伝統文化継承】

奈佐原文楽という伝統文化を継承するため、老朽化した稽古場を改修し、練習場所を確保することで後継者育成につなげる。また、環境を整え、公演を増やし、地域内外に伝統文化を発信する。

稽古場改修、備品購入、看板修繕等

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	933,677	707,059	60,000	7,972,640	504,620	10,177,996
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	447,627	60,000	0	1,760	195,640	705,027
計	1,381,304	767,059	60,000	7,974,400	700,260	10,883,023

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	1,381,304	0	0	0	0	1,381,304
事業②	—	767,059	60,000	0	0	827,059
事業③	—	—	—	7,974,400	700,260	8,674,660
計	1,381,304	767,059	60,000	7,974,400	700,260	10,883,023

《事業への取り組みを振り返って》

北押原地区では、地域の夢実現事業を実施するにあたり、各自治会から課題を提出してもらい、コミュニティ推進協議会で検討しました。最終的には、北押原地区全体で実施している行事について、今後の継続、発展を目指し、事業を決定しました。

① フレンドフェスタ事業

地域の連帯感の醸成と地域住民の融和、世代間交流を図るイベントとして、フレンドフェスタを敬老会事業と合同開催し、さといもの会等の高齢者交流イベントを強化するなど、地区内の交流促進を図っています。

これまでのフレンドフェスタではステージ用の音響設備を毎回リースしていましたが、新規購入したことで、フェスタの進行及びステージ発表ではこれまで以上に迫力のあるステージとなり、発表者も参加者も満足している様子でした。

音響設備については、中核的設備として様々なイベントや行事に利用しています。機材の保管管理もきちんとできており、新品同様です。主に北押原地区で立ち上げたボランティアバンドである「さといもバンドうたごえ広場」が、他地区の敬老会での演奏や、北押原地区内のさといもの会（高齢者ホットサロン）で依頼を受け、出張演奏もしています。また、年4回、北押原コミュニティセンターの多目的ホールで、演奏会を開催しています。地区内外から多い時で200人程が参加し、バンドの生演奏に合わせ、毎回約20曲を一緒に歌っています。明るく元気な歌声が響き、笑顔の絶えない時間となっており、リピーターも多く、皆さん楽しみにしているイベントの一つです。

コロナ禍では、人数制限をするなど、感染対策を講じながら実施しましたが、やむなく中止となった際は、鹿沼ケーブルテレビに撮影をお願いし、鹿沼トピックスの枠で放映していただき、テレビの前でおうち時間を楽しめる企画となりました。

本来であれば、花木センターでのさつき祭り、まちの駅新鹿沼宿での屋外イベントや、野外ステージで使用する予定でしたが、コロナの影響から残念ながら中止となってしまいました。

要請があれば、いつでもすぐに演奏できる状態なので、一日でも早くそんな日が訪れることを願っています。

音響設備を導入したことで、地域に連帯感が生まれただけでなく、いきいきとした表情の高齢者を見ることができ、世代間の交流が図れました。



北押原フレンドフェスタ&敬老会

② ふれあい広場ドリーム事業

北押原地区のモデルケースとして実施した事業です。上殿町自治会館「上殿ふれあいセンター」を拠点として、室内及びグラウンドを開放し、憩いの場を提供することにより、子育て世代を支援するとともに、高齢者との三世代が交流を図れる場として始めました。



購入した備品で楽しく活動

開設して丸三年が経過しました。高齢者のほっとサロンは、毎週水曜日に実施し、お茶を飲みながら、輪投げやかるた遊び等をしています。月に1回は、季節を感じられるお花見や体験教室等の小旅行を楽しんでおり、毎回とても好評です。

「できることは自分でやる。」「何事にもチャレンジする。」をモットーに、認知症など的高齢者も受け入れています。

また、子育て世代との交流は、じゃがいもの収穫です。高齢者と子供たちが一緒にじゃがいもをほり、収穫したじゃがいもで作った、豚汁やじゃがバターを食べ、昔遊びを覚えてもらう活動をしています。しかし、最近では、コロナの影響や、保護者の事情等で子供達との交流ができていないので残念です。

今後は、コロナ禍でも出来ることを考え、参加者が楽しめる事業を企画していきたいと、自治会長は話してくれました。

③ 奈佐原文楽稽古場改修事業

奈佐原地区に継承されてきた人形浄瑠璃、奈佐原文楽（国選択無形民俗文化財）は、江戸時代末期から大阪の文楽座の座員たちが奈佐原に住んで、地元の人たちに教えたとき、以来、地元の方々大切に伝統を守ってきました。しかし、25年ほど前には後継者不足に陥るなど、存続の危機となりましたが、当時30代の若い世代が後を継ぎ、伝統文化を絶やさず、更に今の若い世代に引き継ぐ努力をしています。北押原小学校では文楽のクラブが、また北押原中学校では、創作部が奈佐原文楽継承の活動をしています。現在、奈佐原文楽の保存団体「奈佐原文楽座」の座員が、北押原中学校の創作部の生徒に月2回指導しています。

今回は、活動の場である、稽古場が老朽化したため、屋根、トイレに加え、舞台や床の改修を行いました。また、演目を演じやすいよう音響や照明設備を整え、保管場所も確保しました。

使用できる人形が減り、限られた演目しかできないため、新たに人形の手足を新調し、新しい演目に挑戦することができ、士気の向上に繋がりました。

コロナ禍により、学校訪問による稽古が増えたため、移動用のラック等を揃え、天候に左右されず鑑賞できるよう、ワンタッチテントを購入しました。

敷地内にある奈佐原文楽の説明看板が識別不能のため、今後外国人の見学を見据えて、英文入りの説明看板を新たに設置しました。



奈佐原文楽説明看板

公演の場が失われていましたが、新しくなった稽古場で、令和2年11月22日に奈佐原文楽稽古場改修お披露目公演会を開催しました。来賓を迎え、北押原中学校創作部の生徒、奈佐原文楽座の座員が、傾城阿波の鳴門巡礼歌の段～十郎兵衛住家の段を披露し、今年度初めての公演に中学生も生き生きと演じていました。

【参加した方の感想】

〔生徒〕 きっかけは、先輩に誘われて見学して、自分も伝統芸能を受け継ぐ活動をしたと思ったこと。やればやるほど奥深さを感じ、多くの人にその魅力を知ってほしいと願っている。

人形を操って感情をどう表現するかが難しいが、大勢の人の前で演じることができてやり切った思いがあり、少しは文楽を伝えることに役立ったかなと思う。

日本文化が好きで、小学校のクラブ活動から文楽に取り組んでいる。今後も活動を続けていきたい。

〔顧問の先生〕 物語の内容の理解が進むと、子供たちの表情が変化し、それにつれ人形もその子なりの動きになってくると、活動を通しての成長を感じています。また、地域の人たちと交流する貴重な場になっており、地域との結びつきを常に考えられる人になってほしいと期待しています。

〔文楽座の方〕 改修したことで、舞台が広くなり、動きやすくなった。また、舞台を低くしたため、演じる側の視界が広がり、客席から見やすくなった。と公演の手応えを感じていました。生徒に関しては、小学校、中学校と続けてやっている子が多くいるので、大人になってからもぜひ続けてほしい。舞台に立った経験は必ずその後の人生に活きると思う。

コロナ禍であるが、新しい稽古場で座員及び中学校の生徒が安心して稽古できる環境を整え、地域の憩いの場として、更には北押原地区伝統芸能の継承を支える場所として、今後も活用していきたいです。



改修された稽古場で実施されたお披露目公演会の様子